

令和元年度 事業報告書

平成31年4月1日から令和2年3月31日まで

(特定非営利活動法人 色えんぴつ)

1 事業の成果

就労継続支援B型「喫茶色えんぴつ」

・工賃について；令和元年度、喫茶店営業はお客様数が前年の27.5名/日から29.5名/日と増え、その分純利益もわずかながら増加した。前年度の実績から、令和元年度は時給を620円から580円に下げたこともあり、工賃支払対象者延べ人数は243人に対して工賃総額は3,594,047円。利用者の平均工賃は2年連続で前年度を下回り、14,782円(-219円)となった。しかしそのことにより通所率が大幅に下がることはなく、50.2%（前年度-0.6%）という結果となり、利用者のモチベーションは維持できていると考えられる。令和2年度は、元年度の純利益が増えたこともあり、時給をあげられる見込みである。

・池上梅園の甘酒販売について；2月の池上梅園での甘酒販売は前年より酒粕の購入量をふやし営業に挑んだが、新型コロナウイルスの影響により梅園へ来園するお客様数も減り、売り上げが伸び悩む結果となった。夜間ライトアップを行う時間帯に数日営業を行ったが、完売にはいたらなかった。

・ランチタイムの営業と利用者支援；ランチタイムではお客様がいきなり50名押し寄せることもあり、利用者はスピードが要求され、仕事を自分のペースで行うことができないこともあった。そんな時は利用者一人一人に身体的・精神的負担がかかっていると思われた。利用者の中には体調面から通所日数を減らしたり、1日の作業時間を減らす方も出てきている。利用者は就労を目指す方、喫茶で長く働きたい方、病状の安定のため生活を整えることを目指す方など様々な理由で利用している。それぞれの目標が達成できるよう、面談の機会を設けている。令和元年度に受審した第三者評価では利用者の満足度が81.8%となっている。

・就労支援について；利用者全体に向け、就労準備に役立つ情報提供（職場体験実習、講座、求人情報）を行った。また利用者のニーズに合わせ職場体験実習連絡調整等の支援を行った。就労センター等他機関との連携を図りながら支援を実施した。令和元年度も1名就労につながった。

・「就労者ミーティング」の呼びかけを行い、就労にかかわらず広くテーマを募り、語り合う場を提供している。卒業生の近況確認を行い、卒業後も相談しやすい関係を継続できるようにしている。

就労継続支援B型「みどりの歩み」

・花壇作業の4か所（東調布公園、店舗前、オフィスビル前2か所）を2グループで分担し、1回でたっぷりの水を上げるなどの工夫をし、これまで週に5~6回行っていた水やりを週4回に減らしても花壇の花の状態をきれいに保つことを可能にした。またメンバーとともに「花壇デザイン検討会議」を開催し、どんな花壇づくりをしたいか意見を出し合い、皆が花壇に「愛着・自信の持てる花壇づくり」に繋がるように努めた。

・自主生産品について；利用者発案の多肉植物の寄せ植えを自主生産品として取り入れた。また平成29年度「受注促進・工賃向上設備整備事業」による補助を受けて整備した製菓室について、令和元年10月に東京都監査委員による監査が行われ、有効活用されていないという指摘を受け、早急に製菓作業の見直し・新商品として①エディブルフラワーのクッキー②チーズ&ローズマリークッキー③チーズ&ブラ

ックペッパークッキー④オレンジのブラウニーの新商品を確定・開発した。同時に製菓の作業時間を増やし、販売販路の拡大のため生産活動連絡会の販売会に出品するなど販売促進を進め、順調に売上を向上させている。しかし3月頃から新型コロナウイルスの影響により、予定していた販売会が中止になる等予定通りに進まないこともあったが、この期間に消費期限検査を行うなど営業再開の準備を継続している。

・工賃について；企業の機械化により高単価の内職作業が1件受託できなくなった。その他の内職作業は安定した収入となっている。区から受託している公園清掃が前年より1か所増えたことでも収入が上がり、工賃支払対象者延べ人数309人に対して工賃支払総額は2,929,140円。平均工賃は前年度に比べ、1,300円増の9,479円となっている。

・就労支援；大田区・精神障がい者の職場体験実習に1名が参加した。また就労に向けた情報提供を行い就労移行支援事業所の利用に繋がった利用者が1名いる。

共同生活援助事業「Kハウス」

・福祉サービス第三者評価受審；平成30年報酬改定の際にグループホーム補助要件として3年に1回義務付けられた福祉サービス第三者評価をグループホームとして初めて受審した。支援を振り返る機会となり、業務、防災、危機管理、虐待防止などのマニュアルについて様々な声を反映した見直しや付足しの機会をつくりより良いものを目指す切っ掛けになった。

・外部研修；補助要件の年1回の外部研修は計画的に受講し、既定の研修以外でも受講したもので入居者支援に役立つと思われたものについては伝達講習をし、職員間で情報共有した。

・各ホームの運営について；前年度開設したSYホームも運営が軌道に乗り、各ホームとも年間を通して全室稼働した。一軒家とアパートタイプの違いを考慮し、「入居」という体験を前向きに捉え歩めるように、定期的に面談を行ったり、開かれた交流室の活用を通して互いのコミュニケーションを図った。

・災害対策；令和元年度は度重なる台風に見舞われた。急遽各ホームに夜間支援を配置し、入居者の不安の軽減に努めた。また年度末には新型コロナウイルスが猛威を振るい世間を騒がせる中、ベラミハウスで発熱者が出たので、世話人は感染を想定した上で、他入居者に感染を拡大させないために対応に追われた。正確な情報収集に努め、迅速な対応をしっかりと話し合っておくことが大切と思われた。

・入退居者状況；令和元年度退居者は、「Kハウス」で0名、「ベラミハウス」では2名「SYホーム」では1名。入居者は「Kハウス」「ベラミハウス」とも2名、「SYホーム」は1名となっている。見学者は「Kハウス」が4名、「ベラミハウス」が8名、「SYホーム」が0名。体験宿泊者は3名延べ4件あった。

自立生活援助事業「樟」

・令和元年度の利用者；平成30年10月に開設した自立生活援助事業は、利用者の数が4名からなかなか増えず、利用者の発掘が課題であった。区の職員にも事業が周知されていないのではないかと考え、訪問看護や地域定着支援との違いを各庁舎へ出向きお知らせした。その甲斐あって令和元年度は利用者が少しずつ増えている。3月末には11名の利用者となった。また大田区以外への転居や死亡・他のサービスへの移行で利用終了となったのは3名であった。

・支援内容；支援内容の内訳をみると掃除片付け、引っ越し関係の支援、同行支援、その他となっている。利用者の困りごとに対して助言を行うだけでなく、一緒に作業を行うことや同行支援を通して信頼関係を構築することで安心感を得てもらい、地域で「孤立することのない」支援を心掛けた。

2 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

(事業費の総費用【124,821】千円)

定款に記載された事業名	事業内容	日時	場所	従事者人数	受益対象者範囲	受益対象者人数	事業費(千円)
就労継続支援B型「喫茶色えんぴつ」	<ul style="list-style-type: none"> ・「喫茶色えんぴつ」の営業を通して飲食物の調理・接客・デリバリーなど ・池上梅園における甘酒処の営業・その他地域交流 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎週月～金の9時～17時 ・2月上旬～3月上旬(火～日 週6日) 	<ul style="list-style-type: none"> 喫茶色えんぴつ 大田区立「池上梅園」 	7名(そのうち障がい者雇用2名)	精神障がい者等	延べ 259人 平均通所率 50.2% (開所日 241日)	39,189
就労継続支援B型「みどりの歩み」	<ul style="list-style-type: none"> ・主に花壇管理 ・公園清掃(年間88回)など ・自主生産品開発・製菓作業・販売 ・内職作業 	毎週月～金の9時～17時	<ul style="list-style-type: none"> 東調布公園花壇・地域の花壇など みどりの歩み館内 	6～7名	精神障がい者	平均通所率 46% (開所日 243日)	34,477
グループホーム「Kハウス」	共同生活援助事業「介護サービス包括型」 「Kハウス」 「ベラミハウス」 「SYホーム」	通年	各グループホーム	13～15人	精神障がい者等	入居者 17人	50,103
自立生活援助事業	「樺」	毎週月～金の9時半～17時半	利用者宅	1～2人		利用者 14人	1,051

(2) その他の事業

(事業費の総費用【 】千円)

定款に記載された事業名	事業内容	日時	場所	従事者人数	事業費(千円)